



大阪広域NEWS

Vol.7

発行

大阪広域生コンクリート協同組合

〒541-0048 大阪市中央区瓦町2丁目4番7号

新瓦町ビル5階

TEL.06-6222-5661 FAX.06-6222-5662

www.osaka-kouiki.or.jp



明日の大阪のために...

第24回 通常総会開催

2018年6月26日(水) ホテルオークラ神戸

堅実なる成果報告と、更なる躍進を期待

平成30年6月26日(水)14時より、神戸市中央区・ホテルオークラ神戸にて神戸、当協組の第24回通常総会が開催された。

木村貴洋理事長の挨拶の後、平成29年度の事業報告並びに決算書類の件、平成30年度の構造改善・集約廃棄・幹線事業の件、再生事業預かり金及び品質保証積立金に関する件、平成30年度修正収支予算案の件、任期満了に伴う役員(理事・監事)選任の件の5つの議案について、審議が進められた。

議案審議

第1号議案

平成29年度の事業報告並びに決算書類の件 生コンクリート業界の状況

全国の平成29年度の生コンクリート出荷数量は、83,700,958m³(前年度比99.7%)であった。(全生連調べ)官公需は2.9%減の33,826,000m³で、過去最低だった昨年度を更に下回った。民需については1.6%増の49,874,958m³で、4年ぶりに増加したが、総出荷数量83,700,958m³は3年連続で最低を更新した。

当協組の平成29年度は、組合員数123社147工場でスタートしたが、新規加入促進の更なる進展で、期末では組合員数が162社186工場となった。それに伴い事業エリアも拡大し、総出荷量という面では増加しているが、大阪6ブロックだけを見ても毎年数パーセント減少することが想定されている。以上の内容を鑑み、構造改善事業に更に取り組むことが必要であると思われる。

以下、平成29年度において実施された具体的事業が報告された。(以下一部抜粋)

3-1 共同販売事業

共同販売事業については、神戸ブロックが平成29年8月1日から開始となり、北摂ブロック及び北神ブロックが11月1日から開始となった。淡路ブロック、播磨ブロック及び兵庫西部ブロックについては、平成30年4月1日から開始となる。

(1) 売上状況

平成29年度の共同販売出荷数量は6,007,690m³であった。

売上	金額	9,921,246万円
	平均金額	16,514円/m ³ (前年比+1,922円/m ³)
仕入	金額	9,869,213万円
	平均金額	16,428円/m ³ (前年比+1,835円/m ³)

(2) 流通と取引及び販売価格

今期も新規登用社(8社)及び合意解約社(8社)があり、期末現在、55社の販売店数となった。

3.2 構造改善・集約廃棄・幹線事業

持続可能な協同組合を確立するため、平成29年度実施要項に則り、構造改善事業を継続的に進めた。本年度の事業として廃棄事業を認めた。

現在協業事業を実施している社については、平成31年3月31日までに協業を解消する方向で検討する。

3.3 共同金融事業

(1) 転貸融資

●平成29年度上期27工場に貸付 総額5億3,000万円
平成30年3月末現在の貸付残高は、1億5,900万円となっている。



(2) コミュニティ融資

●平成30年3月末現在、30社(8億5,500万円)が利用している。

3-4 教育及び情報の提供に関する事業

品質管理及び技術向上の徹底、情報の提供

- (1) 各種団体等が開催する講習会や研修会に積極的に参加し、最新技術情報の収集に努めるとともに技術委員会においてその情報を発信し、組合員の技術力向上を図った。
- (2) 大阪兵庫生コンクリート工業組合の技術委員会及びワーキンググループに、主査または委員として積極的に参画し、新技術開発に貢献した。
- (3) (公社)日本コンクリート工学会近畿支部「暑中コンクリート工事の現状と対策に関する研究専門委員会」の委員として各種実験に参加し、データの収集に務めた。この結果を含め、上記専門委員会では「土木構造物における暑中コンクリート工事の対策検討ガイドライン」を作成するとともに、報告会を開催する。
- (4) 日本建築学会近畿支部 特別研究委員会「鋼スラグ細骨材の建築用コンクリートへの適用性に関する研究」に委員として引き続き参画した。
- (5) 日本建築学会近畿支部 材料・施工部会との共同で、新規加入社による室内実験および代表工場による実機実験等の結果を含めた「暑中コンクリート工事における対策マニュアル」の改訂版を発行する。
- (6) 技術委員会、配合検討委員会及び品質管理監査委員会を開催し、周辺環境の変化に伴う問題の解決ならびに組合員工場の品質管理体制の維持、継続に努めた。
- (7) 第三者試験機関と連携し、コンクリートの長さ変化試験を引き続き実施し、ユーザーに対する信頼性の確保に努めた。
- (8) 大阪広域協組コンクリート品質向上会議を開催し、学識者、施工者、設計事務所及び販売店等に対し、技術的取組み等の報告と意見交換を行った。
- (9) 全国統一品質管理監査の受審を奨励し、受審した組合員全てが合格し、◎マークの使用を承認された。これにより、ユーザーから高い評価と信頼を得た。
- (10) 新規加入促進に伴う工場調査及び能力調査を実施し、技術関連事項の周知を徹底した。
- (11) 大阪広域協組独自の監査及び実地監査を実施し、品質管理体制の維持及び向上に努めた。
- (12) 教育研修委員会主催による安全講習会を開催し、組合員工場の安全意識と安全作業の向上および見学会の開催ならびに各種講習会の情報発信に努めた。

3.5 リサイクルコンクリート、再生コンクリート事業

資源循環型社会を視野に入れ、フライアッシュや回収水等のリサイクル材の使用を推進し、大阪兵庫生コンクリート工業組合の「回収骨材の有効利用」及び「鋼スラグ細骨材の活用に関する調査研究」ワーキンググループに積極的に参加した。

3.6 新技術による需要創出

大阪兵庫生コンクリート工業組合の「コンクリート舗装の調査及び普及促進」ワーキンググループに委員として参加し、早期交通開放型コンクリート(1DAY PAVE)の室内実験を実施し、基本配合について検討した。その成果物として「1 DAY PAVE配合設計マニュアル」を作成した。

3.7 広報活動の充実

一般紙及び業界紙にPR広告を掲載することに加え、平成28年11月より「大阪広域NEWS」を当協組独自で作成、発行することにより協組内部の一体感の強化及び外部からの信頼感の醸成に努めた。尚、「大阪広域NEWS」は、3ヶ月毎に年4回発行している。

3.8 CSR活動(企業の社会的責任)への取組み

- (1) 広報活動と社会貢献を兼ねて、「第11回未来の大阪を描こう!! 絵画コンクール(産経新聞社共催、大阪府・大阪市、各教育委員会後援)」を実施。応募作品総数は、1,369点であった。
(表彰式) 平成29年10月29日(水)会場: 梅田スカイビル(展示会) 同年10月29日(水)
会場: 梅田スカイビル 空中庭園展望台入口ゲート前
最優秀作品を当協組のミキサー車に転写した。また、産経新聞紙上(11月19日(木)朝刊)及び当協組ホームページにおいて受賞作品を一挙に掲載した。
- (2) ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2018において、当協組は優秀賞を受賞した。
<ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)とは、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会が、次世代に向けたレジリエンス社会構築の為、全国から強くてしなやかな国づくり、地域づくり、人づくり、産業づくりに資する活動、技術開発、製品開発等を実施している企業・団体からエントリーを募り、評価・表彰する選考会である>
- (3) 2025年に開催が予定されている国際博覧会(万博)が大阪・関西で開催されるよう、当協組も2025万博誘致委員会のオフィシャルパートナーとして、その誘致活動に協力した。

(裏面へ続く)

明日の大阪のために...

- (4)京大IPS細胞研究基金及び大阪府や兵庫県の社会福祉、児童福祉施設をはじめ、災害復興支援等、社会の為に社会で生きる人々と子供の未来の為に寄付活動を積極的に行った。
尚、平成30年度は出荷数量×5円を社会貢献活動に役立てることが臨時総会で決議されている。
- (5)平成30年3月4日④に開催された、淀川寛平マラソン2018に協賛した。尚、淀川寛平マラソンの協賛は今回までである。
- (6)当協組は、組合員及び登録販売店と反社会的勢力排除に関する覚書を締結している。また、当協組は、公益財団法人大阪府暴力追放推進センターの賛助会員であり、大阪府警とも連携をとりながら反社会的勢力排除に努めている。

3.9 係争問題の解決

新たな弁護団を結成しコンプライアンス重視の協同組合を目指し、係争問題への強化を図る。

3.10 品質保証積立金・特別事業積立金

平成30年3月31日現在、品質保証積立金は、全組合員の総額が6億1,918万円となっている。平成30年3月27日開催の臨時総会で、品質保証積立金の全額を各社へ返金する方針が打ち出されている。

3.11 出資金の増資

平成30年3月末現在で組合員数が162社186工場で、出資金総額が16億7,200万円となっている。出資金が1,000万円となっていない工場が22工場残っているが、平成30年度中に1,000万円となるように増資を要請する。

3.12 資金の借入れその他の資金調達の状況

資金調達実績 借入先は、近畿産業信用組合及び北陸銀行

- (1)共同事業資金の貸付(平成29年度転貸融資)
借入額 5億3,000万円(平成29年7月5日27工場に貸付)
- (2)共同事業資金(仕入つなぎ資金…当座貸越)
借入額 120億円(平成29年4月～平成30年3月)

3.13 直前3事業年度の財産及び損益の損益の状況

項目	前期	前前期	前前前期
資産合計	17,897,694	12,480,098	12,470,366
純資産合計	1,514,294	963,519	573,973
事業収益合計	74,697,771	32,715,337	32,087,975
当期純利益金額	55,644	210,456	106,171

(単位:千円)

以上の各議案が上程され、承認された。

大阪広域生コンクリート協同組合 貸借対照表

平成30年3月31日現在 (単位:百万円)

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	23,134	流動負債	15,644
固定資産	1,289	固定負債	6,319
有形固定資産	375	負債合計	21,963
無形固定資産	19	出資金	1,672
投資等	895	資本剰余金	162
		利益剰余金	641
		(うち当期純利益)	633
		その他有価証券評価差額	△15
		純資産合計	2,460
資産合計	24,423	負債及び純資産合計	24,423

第2号議案

平成30年度構造改善・集約廃棄斡旋事業の件

平成30年度構造改善・集約廃棄斡旋事業(廃棄事業)の経費の額、その徴収時期及び徴収方法については、次の通りとすることが上提され、承認された。

[神戸ブロック]

- 応募工場数 3工場
- 応募工場(買上)指数合計 3.921%
- 買上総額(解体負担金込) 322,000,000円
- 金利(1.70%) 13,933,950円
- 事業総額 335,933,950円
- 残留(負担対象)組合員数 9工場
- 負担金徴収期間 平成30年7月～平成35年6月
- 負担金徴収方法 協同組合が毎月支払う商品代金との相殺

[北摂ブロック]

- 応募工場数 1工場
- 応募工場(買上)指数合計 17.74%
- 買上総額(解体負担金込) 200,000,000円
- 金利(1.70%) 12,054,365円
- 事業総額 212,054,365円
- 残留(負担対象)組合員数 2工場
- 負担金徴収期間 平成30年6月～平成37年5月
- 負担金徴収方法 協同組合が毎月支払う商品代金との相殺

第3号議案

再生事業預り金及び品質保証積立金に関する件

本件に関し、下記の通り上程され承認された。

<再生事業預り金>(抜粋)

平成30年9月末時点で約15億円、平成31年3月末時点では、約22億4,500万円という金額になる見込み。再生事業預り金について、その使途など総合的に勘案して、再生事業預り金の金額及び徴収する期間等を再考したい。

<品質保証積立金>

平成30年3月27日開催の臨時総会において報告しているが、品質保証積立金の金額を各社へ返金したいと考えている。返金する時期は、本年10月としたい。尚、平成21年度の構造改善費用分担金の残額が残っている社は、今回の品質保証積立金の返金時に相殺することとしたい。

第4号議案

平成30年度修正収支予算案承認の件

平成30年3月27日開催の臨時総会にて承認された収支予算案の内容から、下記の変更が上程され、承認された。2-⑩関係団体負担金(700千円→58,300千円)と合計(514,200千円→571,800千円) 3諸税負担金の一般管理費合計(927,700千円→985,300千円)と事業利益金額(388,560千円→330,960千円)とV予備費の経常利益金額(319,560千円→261,960千円)と税引前当期純利益金額(319,560千円→261,960千円) VI税等の法人税(99,064千円→81,208千円) 当期純利益金額(220,496千円→180,752千円)

第5号議案

任期満了に伴う役員(理事・監事)選任の件

任期満了に伴い、役員(理事・監事)の候補案が上程され、下記の新役員が承認された。

新役員

<中央>

- 理事 上田純也(阪神生コン建材工業(株) 代表取締役)
- (同) 岡本真二(株岡本生コンクリート 代表取締役)
- (同) 峰崎 太(株千石 常務取締役)
- (同) 延山春鷹(株中央大阪生コン 代表取締役)

(同) 山崎慎司(株八光 専務取締役)

<北>

- (同) 生田秀一(北大阪菱光コンクリート工業(株) 代表取締役)
- (同) 植田重夫(株植田生コンクリート工業 代表取締役)
- (同) 大山正芳(ダイワN通商(株) 代表取締役)
- (同) 藤中昌則(ナニワ生コン(株) 代表取締役)
- (同) 矢谷 博(株フレシアコンクリート 代表取締役)

<西>

- (同) 井上 淳(株ライフコンクリート 工業取締役)
- (同) 櫻尾哲也(海山コンクリート(株) 取締役)
- (同) 金沢充洋(株丸正建材生コン 代表取締役)
- (同) 宮本泰彦(宮本生コン(株) 代表取締役)
- (同) 柳 順啓(株啓徳 専務取締役)

<東部>

- (同) 新井根守(株大久保建材生コン 代表取締役)
- (同) 瀬口和美(株五一 常務取締役)
- (同) 菅生行男(加美コンクリート(株) 取締役会長)
- (同) 高本克法(寝屋川コンクリート(株) 代表取締役)
- (同) 木村貴洋(員外)

<阪南>

- (同) 泉池敏彦(株戎生コン 専務取締役)
- (同) 上野山正作(富士上新生コン(株) 代表取締役)
- (同) 地神秀治(株阪南大阪生コン 取締役会長)
- (同) 松山 淳(株北栄産業 取締役)
- (同) 山田英幸(株岡本生コンクリート 常務取締役)

<南>

- (同) 植田浩司(株西野建材店 代表取締役)
- (同) 矢倉完治(昭和産業(株) 代表取締役)

<神戸>

- (同) 田口 淳(株明神コーポレーション 代表取締役)
- (同) 仁木吉光(株北神戸生コン 代表取締役)
- (同) 西原武淳(株サンコー 代表取締役)
- (同) 溝尾廣治郎(株溝尾 代表取締役)

<淡路>

- (同) 森本照彦(第一生コン(株) 代表取締役)

<北摂>

- (同) 串田康圭(株協栄建設 代表取締役)

<北神>

- (同) 森本純治(エス プレイス コンクリート(株) 代表取締役)

<播磨>

- (同) 井口博文(高砂菱光コンクリート工業 取締役)
- (同) 永井秀樹(大開産業(株) 専務取締役)
- (同) 道岡史明(友善生コンクリート(株) 専務取締役)
- (同) 森村広幸(滝野生コン(株) 代表取締役)

<兵庫西部>

- (同) 金海誠一(株金海興業 代表取締役)
- (同) 西田快人(龍野生コンクリート(株) 代表取締役)

監事 寺田耕晴(大阪アサノコンクリート(株) 代表取締役)

- (同) 中村正治(株関西宇部 代表取締役)
- (同) 花井和延(株八光 代表取締役)

その後、新理事による第1回理事会が開催され、新理事長に木村貴洋が、副理事長に岡本真二・大山正芳・地神秀治・矢倉完治・溝尾廣治郎が選任。専務理事には菅生行男、常務理事には上田純也・植田重夫・柳順啓・高本克法・山田英幸・植田浩司・仁木吉光・森本照彦・串田康圭・森本純治・井口博文・金海誠一・営業部長山崎慎司(各敬称略)が選任された。

以上をもって、滞りなく第24回通常総会が終了した。



懇親会

より深い絆を願って、懇親会を開催

通常総会の後、同じくホテルオークラ神戸内にて懇親会が開催された。

木村理事長の挨拶の後、ご来賓の宇部三菱セメント(株)常務取締役 大阪支店長の野原峯明様、神戸市みなと総局 湾岸防災部長の西森正至様のご挨拶を頂戴し、新品

川商事(株)代表取締役社長の五十嵐 明様のご発声による乾杯でスタート。ジャズバンドの生演奏が流れるリラックスムードの中、各関係者様と広域協組会員社代表らが、今後の更なる発展を願い親睦を深めた。閉会の辞は、岡本慎二副理事長が務めた。

第24回 通常総会 懇親会 大阪広域生コンクリート協同組合